

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12014	考古学	2 単位 前期	1~4	講義	菅原広史

■テーマ 考古学に触れ、歴史と「モノ」への視座を学ぶ

■授業の概要

考古学とは、過去の人々が残した痕跡（モノ）を通して、当時の人々の生活や社会の様相を復元し、様々な時代の様相を復元する歴史学の一つである。考古学が扱う資料は、地面に埋没したかつてのヒトが居住した空間であったり、ヒトが作り用いた道具である。これらは物言わぬ「モノ」であり、それがどのようなことを意味するかは、我々が理解・解釈せねばならない。考古学に携わる研究者は、これら多様性あふれる「モノ」に向きあい、歴史を明らかにするための理論の構築や資料の収集に努めてきたと同時に、考古学のみならず文献史学・人類学・民俗学・地質学・建築学・生物学など人文科学・自然科学から様々な分野の知識・方法を用いてきた。一つの「モノ」に込められた情報を引き出すために、多角的観点からのアプローチが有用であることを理解することが本講の目的である。

授業では考古学の概念や方法論を紹介すると共に、南島（沖縄）考古学からみる沖縄の歴史を、実際の出土資料に触れながら学ぶ。

■到達目標

- ・「考古学」の研究方法を知る
- ・身の回りにある、考古資料に気づく
- ・「考古学」を通し「モノ」を理解するための多角的な視点を得る

■授業計画・方法

1. ガイダンス
2. 考古学とは何か
3. 発掘調査とは何か
4. 考古資料から年代を探る
5. 考古学と人文科学
6. 考古学と自然科学
7. 南島考古学の世界①（旧石器時代）
8. 南島考古学の世界②（貝塚時代）
9. 南島考古学の世界③（グスク・琉球王国時代）
10. 南島考古学の世界④（近現代）
11. 遺跡はどこにあるか
12. 遺跡をめぐる
13. 遺跡の記録とデジタル技術
14. 考古学と埋蔵文化財
15. 定期試験

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・学期中に「遺跡」または考古資料が展示されている博物館・資料館等を訪れ、それぞれ感想をまとめたレポートを提出する。提出時期は、授業中に指示する。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（受講態度・コメント・質疑）40%、レポート40%、期末試験20%で評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

必要に応じてその都度配布する

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12024 (12019)	琉球沖縄史A (琉球史A)	2単位 前期	1~4	講義	麻生 伸一

■テーマ 琉球・沖縄史から今の沖縄を考える

■授業の概要

「史実」や年号を覚えることが歴史の勉強ではありません。また、歴史は社会に出てからは役に立たないものでもありません。ものごとを批判的に捉え、多角的・多面的に見つけることが歴史学の醍醐味のひとつです。この講義では、政治史や外交史、社会史、民衆史などさまざまな角度から琉球の歴史を掘り下げ、近代以前の琉球沖縄に関する理解を深めることを目的とします。ただし、通史ではなく、琉球沖縄の特質を示す個別テーマを採り上げ、「沖縄」「日本」「東アジア」「国家」「民族」を考える講義をめざします。

また講義中は指名して意見を求めます（けっこうあてると思います）。

■到達目標

- ・現在の沖縄が置かれた立ち位置を歴史的な文脈から説明することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス
2. 伊波普猷と「琉球」
3. 首里を歩く：首里巡検
4. 沖縄人（琉球人）はどこからきたか？
5. グスク時代の外交と社会
6. 書状から近世琉球を考える
7. 誓約書から近世琉球を考える
8. ラクダから近世琉球を考える
9. 国王即位から近世琉球を考える
10. 暦（カレンダー）から近世琉球を考える
11. 祖先崇拜から近世琉球を考える
12. 自然災害から近世琉球を考える
13. シヤーマンから近世琉球を考える
14. 民衆統制から近世琉球を考える
15. 蔡温から近世琉球を考える

定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・レポート（課題論文の論評／博物館見学の感想文、それぞれ1200字程度）の作成を求めます。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポート（2回／70%）と平常点（リアクションペーパー、講義への参加度／30%）で評価します。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価します。

■教科書・参考文献（資料）等

□参考文献

- 高良倉吉『琉球王国』（岩波新書、1993）
 豊見山和行（編）『琉球・沖縄史の世界（日本の同時代史18）』（吉川弘文館、2003）
 安里進ほか『県史47 沖縄県の歴史』（山川出版社、2004）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12025 (12020)	琉球沖縄史B (琉球史B)	2単位 後期	1~4	講義	麻生 伸一

■テーマ 琉球・沖縄史から今の沖縄・日本を考える

■授業の概要

「史実」や年号を覚えることが歴史の勉強ではありません。また、歴史は社会に出てからは役に立たないものでもありません。ものごとを批判的に捉え、多角的・多面的に見つめることが歴史学の醍醐味のひとつです。この講義では政治史や外交史、社会史、民衆史などさまざまな角度から琉球の歴史を掘り下げ、近代以降の琉球沖縄に関する理解を深めることを目的とします。ただし、通史ではなく、琉球・沖縄の特質を示す個別テーマを採り上げ、「沖縄」「日本」「東アジア」「国家」「民族」を考える講義をめざします。

また講義中は指名して意見を求めます（けっこうあてると思います）。

■到達目標

・現在、沖縄が置かれた立ち位置を歴史的な文脈から説明することができる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス
 2. 河上肇・島尾敏雄と「日本」「南島」
 3. 金城哲夫の「沖縄」
 4. 「琉球人」と「沖縄人」
 5. 語られる琉球・沖縄史
 6. ドラマのなかの近世琉球
 7. 米兵の犯罪を考える
 8. 宮古島と近代
 9. 公同会運動と沖縄の自治
 10. 近代教育の導入と「沖縄語」
 11. 首里という都市空間：首里巡検
 12. 沖縄と「移民」
 13. 沖縄とマイノリティ①
 14. 沖縄とマイノリティ②
 15. これからの「沖縄人」の生き方／まとめ
- 定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・レポート（課題論文の論評／史跡見学の感想文、それぞれ1200字程度）の作成を求めます。

■成績評価の方法・基準

□方法 レポート（2回／70%）と平常点（リアクションペーパー、講義への参加度／30%）で評価します。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□参考文献

- 豊見山和行（編）『琉球・沖縄史の世界（日本の同時代史18）』（吉川弘文館、2003）
 安里進ほか『県史47 沖縄県の歴史』（山川出版社、2004）
 鹿野政直『沖縄の戦後思想を考える』（岩波書店、2011）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12022 (12015) (12017)	歴史学A (日本・東洋史A) (日本・東洋史B)	2単位 後期	1~4	講義	麻生 伸一

■テーマ 歴史から現在を考える

■授業の概要

「史実」や年号を覚えることが歴史の勉強ではありません。また、歴史は社会に出てからは役に立たないものでもありません。ものごとを批判的に捉え、多角的・多面的に見つめることが歴史学の醍醐味のひとつです。この講義では、芸術を志向する学生が受講することを踏まえつつ絵画資料などを使いながら、固定概念や定説を見直すことを通して、わたしたちの住む世界、社会を考えます。そのため、いわゆる古代から近現代までの歴史を通観することはせず、日本やアジアを中心とした研究をとり上げ、その研究を体験してもらうことに重きをおいた授業を行います。また、講義中は、指名して意見を求めます（けっこうあてると思います）。

■到達目標

- ・「歴史」や「文化」が社会的に定義され、解釈されてきたことを理解すること。
- ・それらを自らの視点で多角的、かつ広範な視野で捉え、具体的に説明することができること。

■授業計画・方法

1. ガイダンス
2. 歴史をみる視点：動物虐殺とキリスト教
3. 聖徳太子は存在したか？：「歴史」の創出と歴史観について
4. 中世の「自由」：異形、自力救済、ものけ姫
5. 中世の「自由」：倭寇と国家
6. 近世の将軍と天皇：図像にみる権威と権力①
7. 琉球国王と東アジア：図像にみる権威と権力②
8. 「われわれ」と「あなたたち」：図像にみる権威と権力③
9. 清朝皇帝の描き方：図像にみる権威と権力④
10. 見ない外交、触れない外交：近世東アジアの外交について
11. 近代国家と「国民」の創出：権利と義務から「国民」を考える
12. 戸籍と国籍：「日本人」の近代
13. 台湾の歴史と台湾アイデンティティ：民族と国家
14. 【映像鑑賞】台湾の近代と現在
15. 総合討論／まとめ 定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

レポート（課題論文の論評、1200字程度）の作成を求めます。

■成績評価の方法・基準

- 方法 レポート（70%）と平常点（リアクションペーパー、講義への参加度／30%）で評価します。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□参考文献

- 網野善彦『日本の歴史をよみなおす（全）』（ちくま文芸文庫、2005）
- 成田龍一『近現代日本史と歴史学』（中公新書、2012）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12023 (12016) (12018)	歴史学B (西洋史A) (西洋史B)	2単位 前期	1~4	講義	麻生 伸一

■テーマ 首里の歴史を学び今に生かす

■授業の概要

首里は沖縄の文化・芸術が育まれた場所のひとつです。首里にある史跡や遺産の調査を通して沖縄の文化・芸術の背景を考えます。また、調査結果を分かりやすく伝える技術を獲得します。

具体的には、首里のフィールドワークをして、遺跡・遺産について、図書館などを利用して調べ、調べた内容をインターネット上で観光客向け散策サイトを作成します。

■到達目標

- ・歴史・文化的な観点から、沖縄独自の文化・芸術を調査し、発信することを目指す。
- ・首里の観光地図作成を通して、沖縄の文化・芸術の背景について考え、一定の意見を述べる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス
 2. 琉球・沖縄の歴史と文化概説
 3. フィールドワーク①：留意点
 4. フィールドワーク②：史跡・遺産調査
 5. フィールドワーク③：コースの検討
 6. 資料調査①：基礎資料の概要と利用方法
 7. 資料調査②：文献の検索・利用方法
 8. 資料調査③：Web を利用した文献の検索・利用方法
 9. グループ別プレゼンテーション準備：観光コースの決定
 10. グループ別プレゼンテーション：中間報告
 11. サイト作成①：サイトの使い方
 12. サイト作成②：使用する写真の選定と許諾
 13. サイト作成③：説明文の完成
 14. グループ別プレゼンテーション準備：最終調整
 15. まとめ：グループ別プレゼンテーション
- 定期試験は実施しない

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

この講義はフィールドワーク・グループワーク・プレゼンテーションなど学生が主体的に参加する学習活動を含みます。作成するサイトについては <https://www.tsunagaru-map.com/> を参照してください。

■成績評価の方法・基準

- 方法 作成するサイト（70%）と講義への参加度（リアクションペーパー、講義への参加度／30%）
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 参考文献 アジア農村研究会編『学生のためのフィールドワーク入門』めこん、2005年。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12021	日本国憲法	2単位 後期	1~4	講義	後日揭示

■テーマ

■授業概要

■学習目標

■授業計画・方法

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・
- ・
- ・

■成績評価の方法・基準

- 方法
- 基準

■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書
- 参考文献

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12031	文化人類学	2単位 前期	1~4	講義	栗国恭子（非）

■テーマ 多様な人間への理解を深める。

■授業の概要

世界の様々な民族社会・文化を比較研究する学問が文化人類学（民族学）である。様々な地域や環境で生きる多くの民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。様々な「人間の在り方」に触れることで、それぞれの民族の文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもないことを確認する。他民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのようにつながっているのかを理解する。19世紀中頃に誕生した学問・文化人類学の方法論や視点を学ぶ。〈民族〉、〈自然〉、〈技術〉、〈表現（表象）〉そして〈観光〉・〈開発〉をキーワードにアジア・日本・沖縄の民族文化に触れ、その中で世界をめぐる現代問題を考える。パワーポイント、映像資料などを用いた講義構成。

■到達目標

- *人間の文化の多様性を知る。
- *人間・民族社会を比較することで自身の文化の「在り様」を認識する。
- *グローバル化のすすむ現代に、異文化社会との共生を考え・学び、実践につなげる。
- *人間の異文化の多様な豊かさを知ることによって、個人の芸術観や価値観の幅や奥行きを広げることができる。

■授業計画・方法

1. 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論、マイノリティー（少数派）へのまなざし
2. 〈民族〉の概念変化と現代性… 〈民族〉概念のあり様、〈国家〉との関り、〈民族〉をめぐる現代の課題
3. 〈民族〉をめぐる現代の課題 民族紛争、独立運動など
4. 文化人類学学説史… 文化人類学の基本理論（社会進化論、伝播論、機能主義、構造主義、象徴主義ほか）の流れを学ぶ。現代のグローバル化と多文化主義の問題と課題を考える
5. 生活の技術・経済の技術①
海に生きる人々。パプアニューギニアトロブリアント諸島のクラ交換。島嶼社会の平和・秩序観
(1920年代機能主義を展開したマリノフスキーの理論の確認と文化相対主義を学ぶ)
6. 生活の技術・経済の技術② 海に生きる人々 スル―海の漂海民
①国籍とは？国境とは？これらの近代的概念が少数民族の国民化に影響した事例に触れることでその概念を考える。
②アジアのネットワーク（東南アジア、中国、東アジア日本・沖縄）：ナマコ・フカヒレ、海草がつなく社会。
7. 環境と文化… 照葉樹林文化 アジア・沖縄・日本の自然環境と暮らしの共通性を知る。
8. 世界の食文化… 「人は何を食べているか」現代の食文化と日本・アジア 現代問題・グローバル化・環境問題
9. 婚姻と文化… 世界の民族社会における婚姻制度（男と女と社会）の多様性を確認する。
10. 「もの」と人間社会… 金属の技術① 中国の少数民族と中央アジアのクバチの金属文化
55の少数民族の一つウイグル人の多く住むウイグル自治区中国・カシュガルと中央アジアのクバチを事例に金属の技術に触れる。またどのような視点から「文化を記録する」ことを考える。
11. 「もの」と人間社会… 金属の技術② 東アジア・日本・沖縄の金属文化にふれる。
12. 文化と身体… 身体装飾 人生儀礼（沖縄のハジチ、アジアの入墨、管理される身体）
13. 〈伝統〉とは… 観光人類学① 文化の語り・演じ表現する（される）文化 バリ島・沖縄「伝統創造」
14. 観光と開発… 観光人類学② 伝統文化と観光、チベット族と観光、「文化は誰のものか」
15. 環境と開発… 開発人類学① ブラジルの少数民族（カヤポ）、グローバル化の開発と少数民族の環境。
講義全体の解説・振り返り

定期試験は実施しない→15回目講義内で課題提出レポートを提出してもらい、定期試験とする。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

*図書館（分類380及びDVD視聴覚資料）で世界の民族文化や「文化人類学」や「民族学」関係本の読書や、留学生

との交流、様々なメディアの情報から世界各地や日本・沖縄に近いアジアの民族に関する知識を積極的に広げてほしい。講義のテーマについてコメントや意見を述べることなど、積極的な授業参加を求める。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 20%とコメントペーパー (10%)、講義テーマに関連するレポート提出 (学期末試験) 70%で評価する。平常点は授業への参加状況、コメントペーパーの提出状況で総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。世界やアジア・日本・沖縄の民族文化について、講義で扱った<民族>、<自然>、<技術>、<表現 (表象) >そして<観光>・<開発>のテーマに関連した内容について、自身の関心のあるタイトルで、資料を駆使してテーマを説明し自身の考えをまとめることができるか。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 特定の指定教科書ではなく、講義用のレジュメ・資料を配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

□参考文献：

- ①『文化人類学』祖父江孝男篇 中公新書
- ②『文化人類学』松村圭一郎、人文書院、2011
- ③『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己編 ミネルヴァ書房、2006
- ④『文化人類学キーワード』有斐閣双書 山下晋司編 有斐閣 1997
- ⑤『文化人類学最新術語 100』綾部恒雄編 弘文堂 2002、など。

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12032	民俗学	2単位 前期	1～4	講義	赤嶺 政信（非）

■**テーマ** 民俗学からみた沖縄の社会と文化の特徴について学習する。

■**授業概要**

民俗学の研究対象である民俗とは、一定の地域で生活を営む人々が、その生活や生業形態の中から育み、伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式であると規定できる。本講義では、日本における民俗学の成立の事情および日本民俗学の方法論などについてまず学習し、その後、沖縄の事例を中心に個別のテーマごとに取り上げていく。

久高島の民俗探訪も実施する。

■**到達目標**

沖縄の民俗文化について、その背景やそれが有している意味などについて理解することができるようになること。

■**授業計画・方法**

- (1) オリエンテーション
- (2) ムラの掟と制裁
- (3) 女性優位と男系原理－オナリ神信仰をめぐって－①
- (4) 女性優位と男系原理－オナリ神信仰をめぐって－②
- (5) 母系制社会のしくみ
- (6) 沖縄の家と門中
- (7) 沖縄の豊年祭
- (8) キジムナーの民俗学
- (9) 祖先祭祀とその成立
- (10) 霊魂と死霊観念
- (11) 綱引きの民俗
- (12) 久高島の民俗
- (13) 家屋と世界観
- (14) 沖縄における津波に関する伝承
- (15) 講義のまとめ・期末試験

注：順序は変更があり得る

■**履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）**

特になし

■**成績評価の方法**

□**方法** 平常点（30%）、期末試験（70%）にて評価する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■**教科書・参考文献（作品）等**

□**教科書**：特になし

□**参考文献**：赤嶺政信著『シマの見る夢－おきなわ民俗学散歩－』 ボーダーインク、¥1,600

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12041	心理学	各2単位 前・後期	1~4	講義	松田 盛雄 (客)

■テーマ 人間行動科学としての心理学の基礎知識を習得する

■授業概要

本講義では、人のこころや知能の発達、学習の成り立ち、性格形成や社会性の成長、精神病理と心理療法など、心理学に関する知識全般について概説する。具体的教材を活用して分かりやすく心理学の各領域を紹介し、心理学のおもしろさに触れてもらう予定である。社会的評価の高い表現芸術の心理学的理解や、また、マスコミ等で社会の耳目を集めた犯罪や社会事象についての心理学的解釈を紹介することで、心理学の幅広い活用を学ぶ予定である。加えて、自分自身に対する「気づき」を深め、自身のストレス解消や対人関係の改善に役立てられるよう授業を構成する。

■到達目標

- ・心理学の基礎知識を学ぶことを通して、人の社会活動全般について科学的に理解することができる。
- ・知識を自己理解や他者理解に繋げ、また、人と人の関係性や社会活動に対する客観的視点を身につける。
- ・心の病及びその予防法や治療法について学び、大学生活への適応促進に役立てる。

■授業計画・方法

1. 心理学とは何か・心理学の誕生とこれまでの歩み
2. 脳と感覚・知覚のメカニズム
3. 知能の発達と学習の心理学
4. 感情と欲求、動機づけの心理学
5. 性格についての心理学①(性格理論について)
6. 性格についての心理学②(性格テストの活用)
7. 「人の一生」にまつわる発達心理学
8. 男と女をめぐる心理学
9. 社会と人間関係、集団の心理学
10. 子どもと家庭の心理学①(親と子の関係)
11. 子どもと家庭の心理学②(不適應の問題)
12. 深層心理の世界
13. 心の病気と治療の心理学①(いろいろな精神障害)
14. 心の病気と治療の心理学②(現代に特徴的な心の病と治療)
15. 授業のまとめ(大学生活への適応とストレス)及び期末試験

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・講義はシラバスに沿って進めるので、教科書の該当章を予習し理解した上で講義に参加すること。
- ・講義では教科書に示された知識を発展させた最近の研究や教科書で扱っていない領域を付加する形で行うので、予習をきちんと行うこと。
- ・講義用レジュメや参考資料を多く配布するのでファイルにして活用すること。
- ・課題レポートを科すので、指示に従って作成し締め切り日までに提出すること。

■成績評価の方法・基準

□方法 評価は、平常点 (10%)、レポート (30%)、定期試験 (60%) などを総合的に判断して行う。平常点は授業への参加状況で判断する。レポートはコンピュータを使用して作成し提出する。

□基準 「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書

『図解で分かる 心理学のすべて』 深掘元文編著 日本実業出版社 2014年 (教科書販売日に購入する。)

□参考文献 (資料)

『人間理解のための心理学』 中城進著 北大路書房 2014年

『ワークショップ 人間関係の心理学』 藤本忠明他著 ナカニシヤ出版 2006年

『ワークショップ 大学生生活の心理学』 藤本忠明他著 ナカニシヤ出版 2014年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61060	特別支援教育(A)(B)(H31年度以降入学生)	各2単位前・後期	1~4	講義	比嘉 浩(非)
12051	障害福祉概論(H30年度以前入学生)(金曜・2限)				

■テーマ 特別の支援を必要とする幼児児童および生徒に対する理解と支援

■授業の概要

インクルーシブ教育システムの構築を目指した我が国の将来像を見据え、特別支援教育の仕組みや各種障害の理解、教育の実際、子ども達の関わり方、特別支援学校学習指導要領の概要、各関係機関との連携など、特別支援教育に関する基礎的・基本的な知識や教育的支援の在り方を、随時、具体的な映像やインターネット等を活用し、担当教員の実務経験を活かしてわかる授業を心掛ける。課題レポートおよびテストを実施する。

■到達目標

・学習上又は生活上の困難のある子供一人一人が、授業や学習活動に参加している実感及び達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法を理解する。

■授業計画・方法

1. オリエンテーション インクルーシブ教育システムの構築とは(総論)
2. 特別支援教育とは
(障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を含む)
3. 特別支援学校学習指導要領について(総論)
4. 特別支援学校学習指導要領について(各障がい種)
5. 目の不自由な子ども達(視覚障害)の理解と支援
6. 耳の不自由な子ども達(聴覚障害)の理解と支援
7. からだの不自由な子ども達(肢体不自由)の理解と支援
8. 病気の子どもや体の弱い子ども達(病弱)・重度重複障害児の理解と支援
9. 知的に遅れのある子ども達(知的障害)の理解と支援
10. 知的障害教育の実際(学校訪問に替えて)
11. 自閉症(自閉症スペクトラム)の子ども達の理解と支援
12. 発達障害の理解と支援(総論)
13. 発達障害の理解と支援(各障がい種の理解と支援)
14. 障がい者等支援に係る関係機関等との連携について
15. 定期試験およびまとめ 共生社会をめざして～(授業評価)

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・テキストや配布レジメは授業終了後も各自十分に読み込むこと。資料はファイルを用意し一冊にまとめ活用すること。
- ・特別支援教育や障害に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、領域を横断する汎用的能力を身に着けること。
- ・特別支援教育に関する「課題レポート」は本講最終日まで提出すること。ミニレポートは指定した日。
- ・欠席5回以上の者には単位を与えない規定になっているので注意のこと。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点30%、レポート30%・期末テスト40%等 総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献(資料)等

- 教科書・テキスト 全国特別支援学校校長会編著『特別支援学校のすべてがわかる教員をめざすあなたへ』
文部科学省『特別支援学校学習指導要領(最新版)』
- 参考文献 授業中に適宜資料を配付する。